

丸亀市大手町地区4街区南街区 再編整備に関して



※この整備イメージパースは2024年2月時点の暫定版であり、今後変更となります。

■丸亀市大手町地区とは

●丸亀市の特徴

- ・丸亀城の城下町やこんぴら参詣の玄関口として古くから栄えた中心市街地
- ・丸亀市のシンボルである丸亀城や金毘羅参詣の玄関口となっていた丸亀港の太助灯籠などの歴史の足跡や、讃岐平野を流れる土器川などの自然が感じられる
- ・通町商店街を中心に展開される4つの商店街
- ・丸亀の地場産業であるうちわのミュージアムや製作体験ができる工房など文化に触れられる

●丸亀市大手町地区

- ・丸亀城大手門前に位置するかつての城下町となっていた地区
- ・様々な機能が集約されたまたまちなかの重要なエリア

大手町地区4街区に集約されている施設

- ・市庁舎 ・消防署 ・税務署 ・市民活動交流センター
- ・保健福祉センター ・市民ひろば ・駐車場 ・市民会館（整備中）



大手町地区4街区位置図



丸亀城から見た大手町地区4街区



丸亀城（大手門前）



太助灯籠（丸亀港）

■「大手町地区4街区再編整備構想」とは

●大手町地区4街区再編整備構想

- ・大手町地区を丸亀市の都市機能が集積する中心的なエリアとして新たな魅力ある拠点地域となることを目指す。

大手町地区4街区の将来像

将来に渡る丸亀市の拠点地域として、シティ・プロモーションによって、

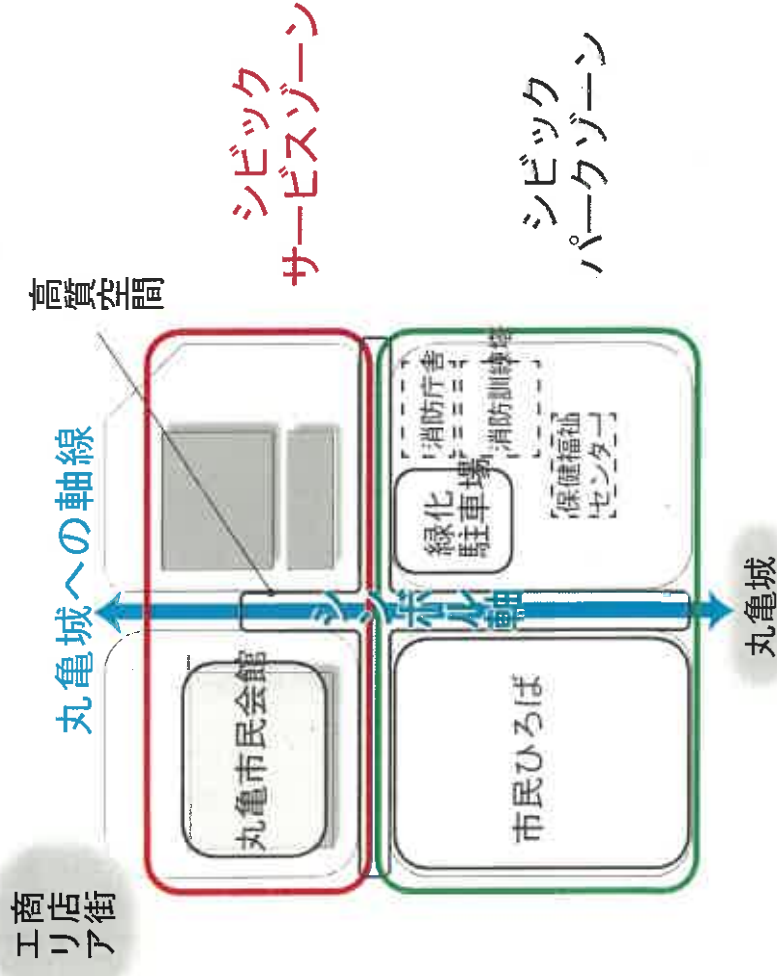
様々な市民が集い、市民が躍動する、「市民の舞台」を目指す

- ・本構想では以下の2つを行うための方針が示されている。

- ①市庁舎や新市民会館、生涯学習センター等の
公共施設の再配置・整備
(シビックサービスゾーン)
- ②上記によって生じる空き地と既存の市民ひろばを
一体的に活用したまちなかの憩いの場の創出
(シビックパークゾーン)

●将来像の実現に向けた土地利用の方向性

- ・4街区の中心を丸亀城への軸線としてのシンボル軸
- ・シビックサービスゾーン
- ・シビックパークゾーン



⇒商店街エリアから丸亀城に向かって、公共施設、駐車場、憩いの場と
徐々にオープンな空間となっている

■大手町地区の整備状況と活動

●市庁舎等複合施設

整備済み、利用開始

マルタスには、ラウンジや学習スペース、カフェがあり、マルタス登録の活動団体は、DIY 教室等講座や市民ひろばでのお祭りの開催等色々な活動を実施。

●市役所西側道路（高質空間）

一部整備済み、整備済み区間は利用開始

丸亀城への動線として整備された歩行者専用道路は、日常的にベンチでくつろぐ場所としての利用や、マルシェなどのイベント会場として活用されている。

●新市民会館（みんなの劇場）

整備工事中

現在整備工事中の市民会館は、市民によるワークショップでやってみたい・やるべき活動のアイデアを出し合っており、セミナーや展示、足湯や部活動の練習などの意見があがっている。

※並行して南街区が計画中



DIY 教室の様子



マルシェ（BOOK WEEKEND）の様子



市民会館完成イメージ



ベンチでくつろぐ高校生の様子

■南街区の現況



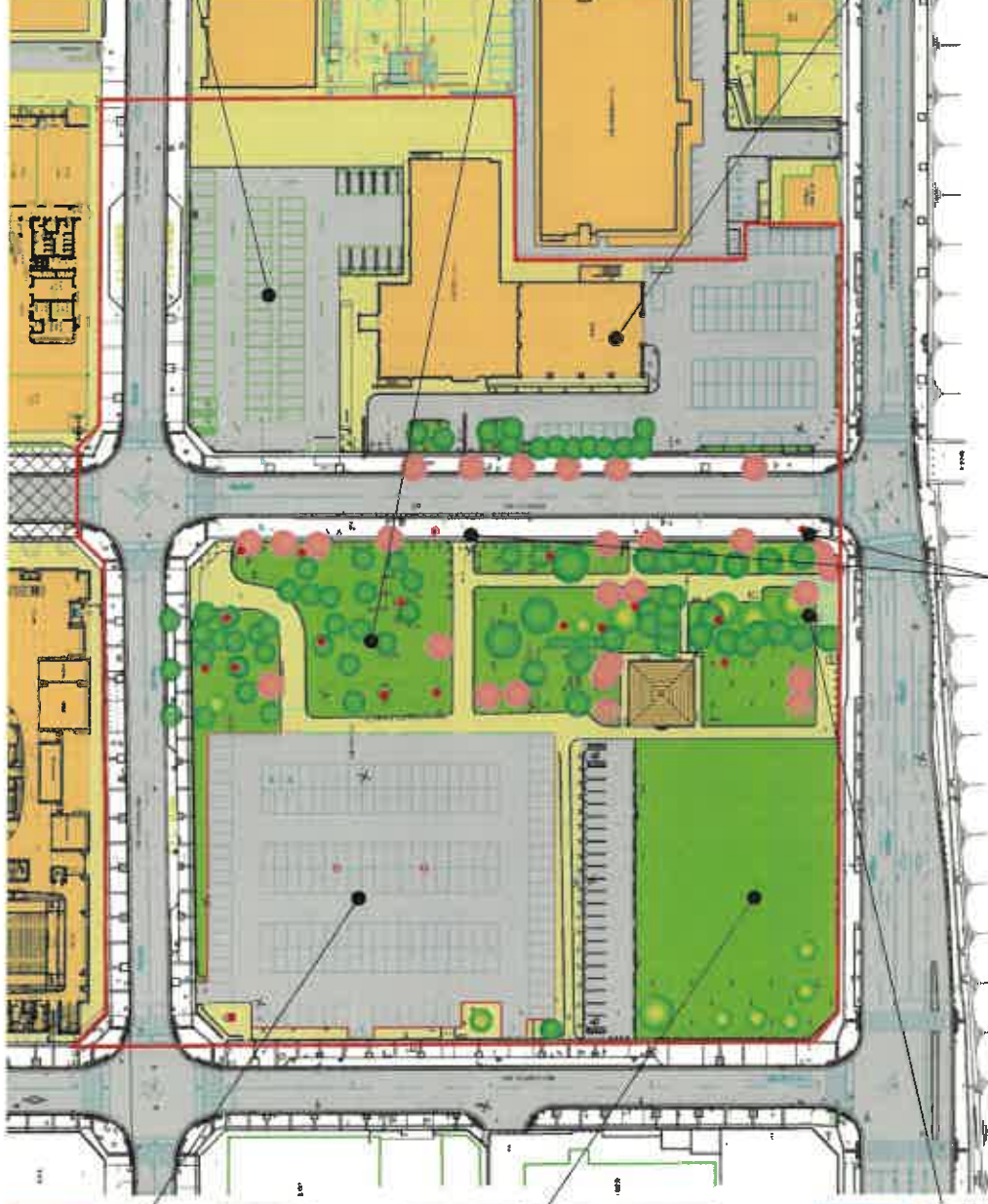
市民広場北側は臨時の
駐車場となっている



芝生広場では子どもたちの
遊ぶ様子が見られる



木陰ではベンチで休憩する
地元の方の姿が見られる



かつての町割りを示す
石碑も見られる



旧税務署跡は臨時駐車場
多くの利用者が見られる



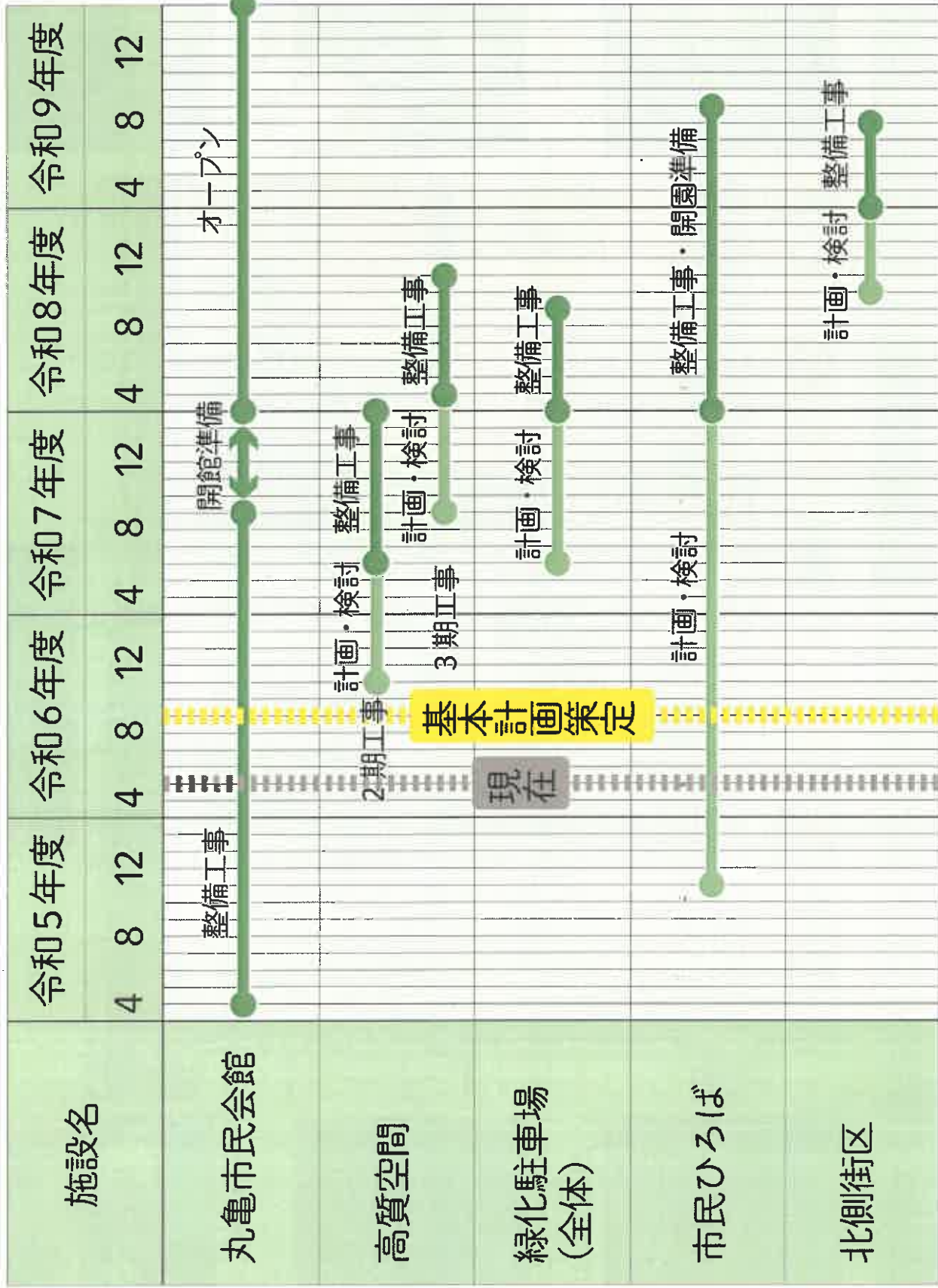
豊かな既存樹木は保存・
活用の要望も多くある



生涯学習センターは解体
予定である（機能は市民
会館などへ）

■「大手町地区4街区再編整備構想」とは

●整備スケジュール（予定）



※スケジュールは2024年5月時点の想定のもの

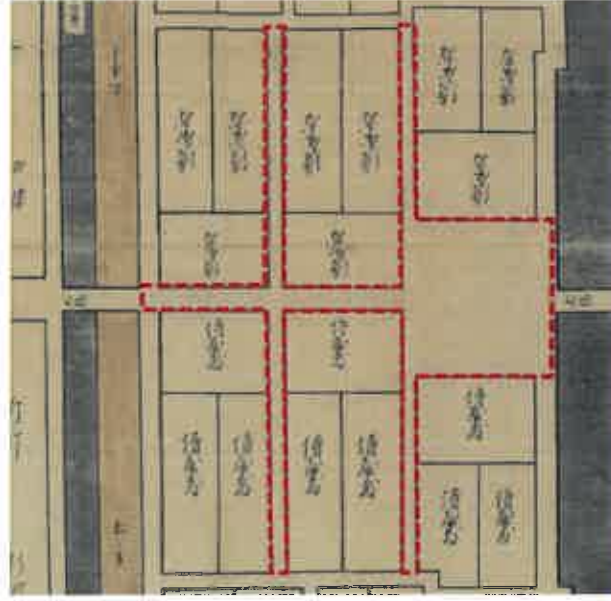
■整備方針

●整備方針① かつての町割りと緑が重層する魅力ある空間構成

- ・かつて大手門の前にあった城前広場を大手門広場として再生させる
- ・丸亀城への軸線（シンボル軸）と、大手門の前にあった城前広場を舗装で顕在化
- ・大手門広場を市民が集まり活動する空間とする



番町の石碑（現地撮影）



1640 年ごろの大手町地区の町割り



現在の大手町地区の町割り

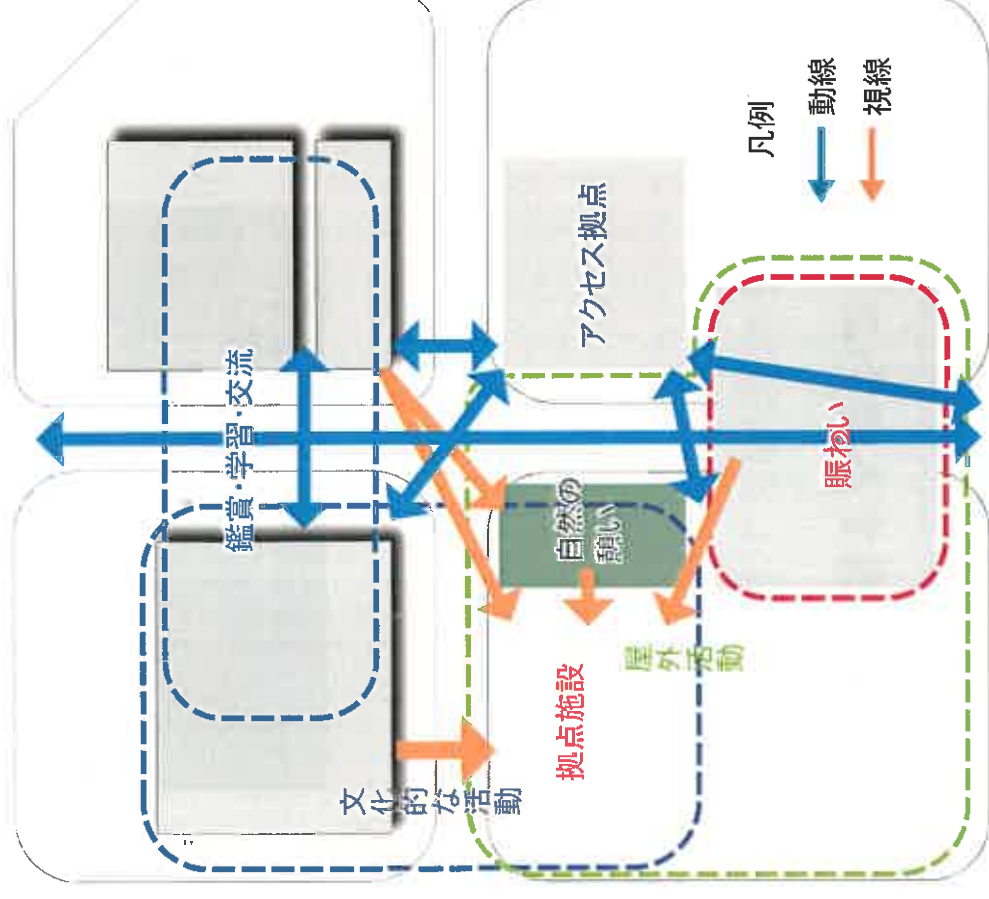


整備後の大手町地区の町割り

■整備方針

●整備方針② 既存施設との隣接関係で連携を強化する施設配置と一体的な運用

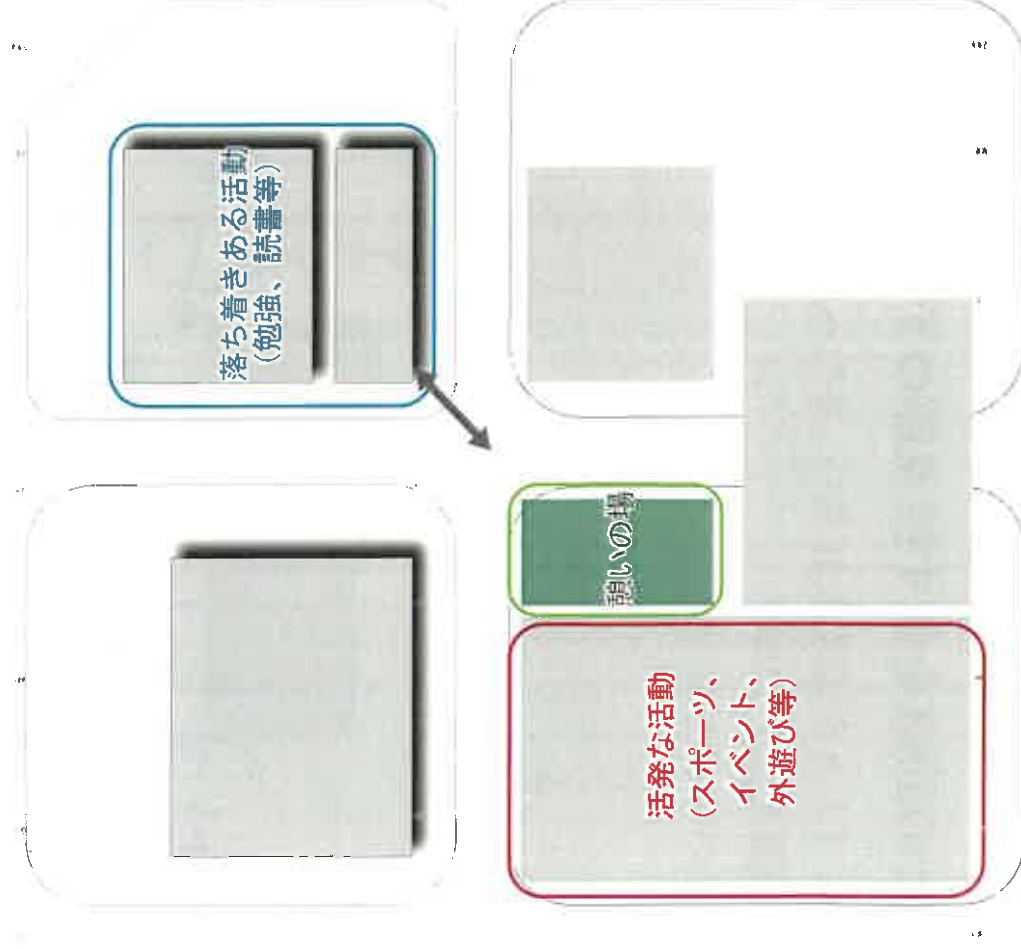
- ・ 文化的な活動と屋外活動の交わるエリアに、物産館等の拠点施設の設置を検討
- ・ 物産館等施設を拠点に、屋外へと活動を誘発
- ・ アクセス拠点となる駐車場は、市庁舎や市民会館と隣接させ利便性を高める



■整備方針

●整備方針③ 多様な活動が共存するエリア分けと協働による場づくり

- ・既存樹木を緩衝帯とすることで、マルタスでの落ち着いた活動と、芝生広場での活発な活動が両立
- ・日常／非日常で使えるファニチャー製作などの活発な活動（ワークショップや社会実験）の実施

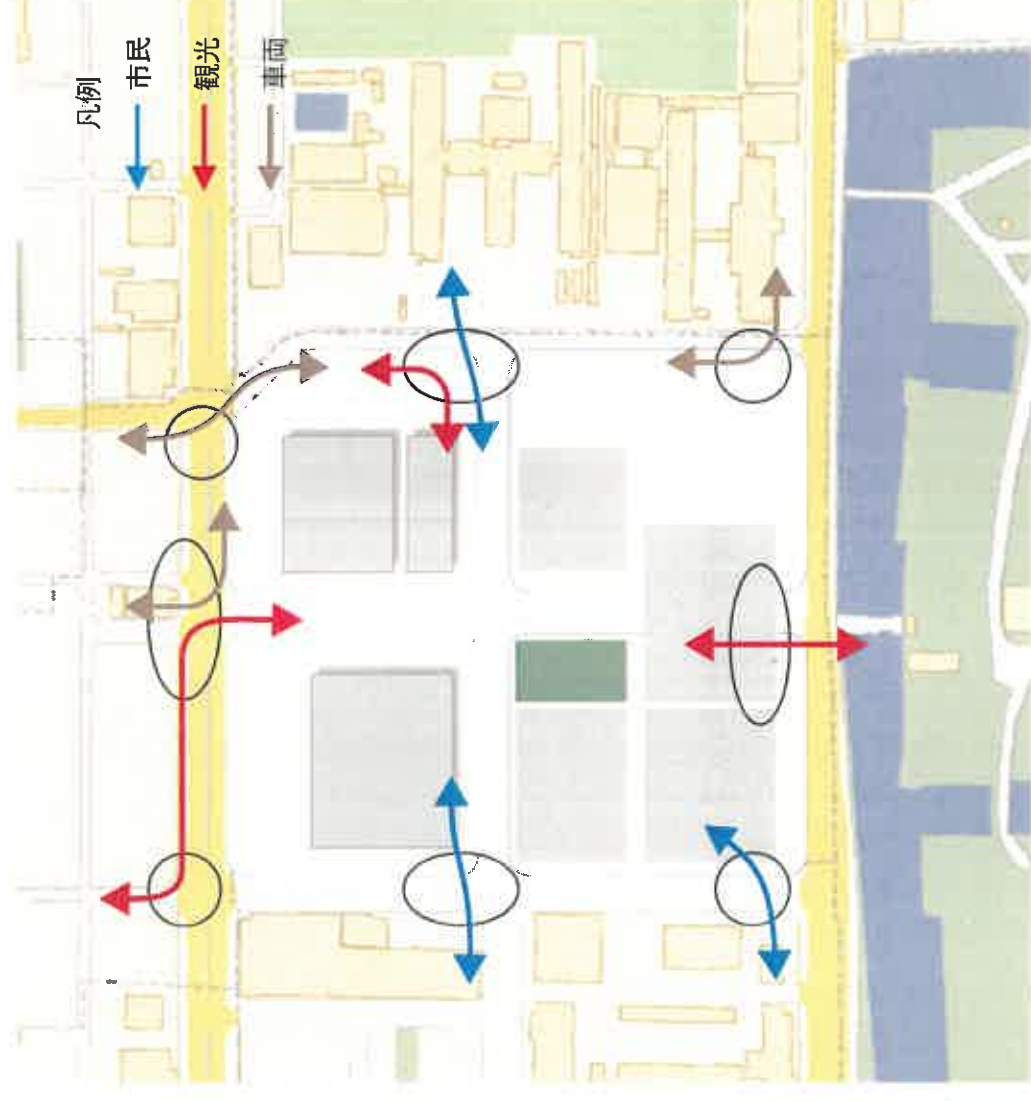


緩衝地帯の緑による多様な活動の共存

■整備方針

●整備方針④ 周辺エリアとの回遊を促す接点部のデザイン

- ・市民・観光客・車両動線の接点に「人々を迎え入れる / まちへといざなう」デザイン（舗装デザインや誘導・案内・解説サイン、植栽の設置など）の導入
- ・周辺民有地の関係者と回遊性向上の目標を共有



■整備イメージ



■各エリアの整備イメージ

大手門広場エリア

【整備イメージ】 城前空間を大きな広場としてオープンなスペースとして整備

(画角①)



○デザイン案 大手門広場の中心に水面を反射する丸亀城を楽しめる水盤を設置

(画角②)



○デザイン案 子どもたちの新たな水辺の遊び場を創出

先進事例

□高山駅東口駅前広場（岐阜県）
靴を履いたままでも水面に入れる水深5cmの水盤が設置されている。



(画角③)



◎空間の活用案 日常的にキッチンカー等での飲食販売イベントの開催

■各エリアの整備イメージ

ウォークアブルエリア

【整備イメージ】かつての町割りを顕在化させ、丸亀城に向かう軸線としてのシンボル軸に相応しい舗装として整備



(画角④)



(画角④)

○デザイン案 丸亀城への軸線をより強調するような舗装を検討中

先進事例

□行幸通り（東京都）

落ち着いた色調で品位のある舗装材を用いて、シンボル軸に相応しい空間が創出されている。



□神門通り（島根県）

車道の舗装の石畳化や街路灯などによって、参道としての風格のある景観が創出されている。



■各エリアの整備イメージ

森林憩いエリア

【整備イメージ】既存樹木や起伏のある地形を生かし、木陰のある憩いの場として整備



○デザイン案 4街区中心部を円形広場としてベンチの配置を検討中



◎空間の活用例 樹木を生かした子どもたちの遊び場を整備

先進事例

□昭和通り・交差点四隅広場（大分県）
交差点の各四隅にベンチを配置し、信号待ちなどの
ちょっとした休憩スペースを創出している。



□椿の森コムナ（千葉県）
既存の樹木を活用したツリーハウスや
ウッドデッキを設置しくつろぎ空間を創出して
いる。



■各エリアの整備イメージ

芝生広場エリア

【整備イメージ】多様な世代の様々な活動を受け入れる広々とした芝生空間を整備



◎空間の活用例 周囲の木陰でくつろぐいたり、ヨガが出来る場所に



○デザイン案 舗装や、起伏のある地形を整備し、観客席に見立てた空間を検討中

先進事例

- キャスガールデン（兵庫県）
階段をベンチとして活用し、正面に位置する場所を
ステージとして利用できる空間が整備されている。



■各エリアの整備イメージ

緑化駐車場エリア

【整備イメージ】立体・平面駐車場を整備しイベント時は平面駐車場を広場と一体的に活用



先進事例

□水島商店街（岡山県）
駐車場をイベント会場に活用し「水島パーキングデイズ」が開催されている。



□北本駅東口（埼玉県）
駐車場をイベント開催時のベンチやパ
ラソルで休憩する場所に活用してい
る。



■各エリアの整備イメージ

※公園施設の運営について

公園施設の運営を民間事業者に依頼し、施設運営によって生じた収益を公園整備に充てるという手法が取られることもある。

物産館等の公園施設の先進事例

□福山市中央公園（広島県）

自家農園で栽培した野菜を使った料理を提供する
ガーデンストラップが公園施設として整備されてい



□稲毛海浜公園（千葉県）

海浜公園内でキャンプやグランピング、
バーベキューが楽しめる施設が整備されてい



■オープンハウス型説明会の実施

●オープンハウス実施結果

- ・ 来場者数 : 計 304人／7日間 (43.4人／1日)
- ・ チラシ配布数 : 計 481枚
- ・ うちわピン記入数 : 計 177個
- ・ ご意見等 : 計 59件

※うちわピンは作成していないがお話を伺えた方

●オープンハウス実施期間の様子



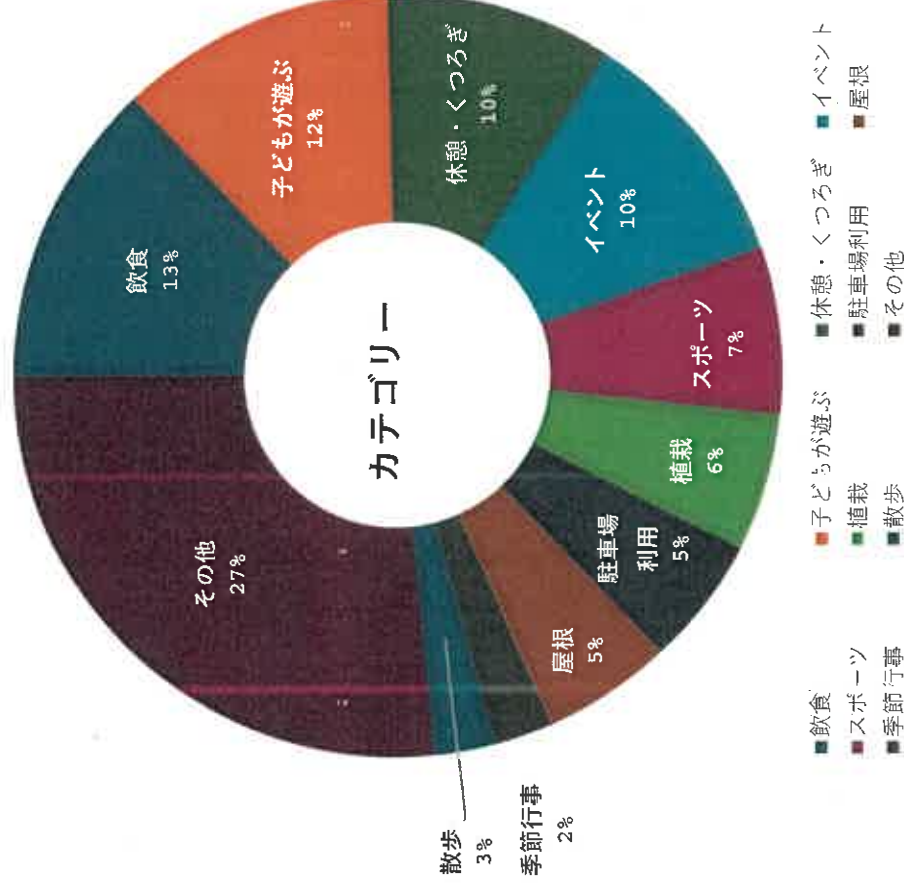
■オーブンハウス型説明会で得られた市民の声

回答カテゴリーの傾向

- ・「飲食」に関する回答が13%と最も多く得られ、それに続いて「子どもが遊ぶ」活動に関する回答が12%、休憩・くつろぎ、イベントなどの活動についての回答も10%の回答が見られた
- ・スポーツの実施や駐車場利用についても、それぞれ回答を得られた

⇒市民が大手町地区4街区周辺で、飲食施設や子どもの遊び場を求めている

【回答エリアの分布と割合】



■オープンハウス型説明会で得られた市民の声

回答内容の概要

- ・うちわピンから得られた回答について、回答に使用された単語の出現頻度を算定し、大きさでその程度を表現した図を示す
- ・「子供」が最も多く出現していることから、子供たちのための活動や設備を求める声が多いことが考えられる
- ・「駐車場」に対する関心も非常に高いことが推察される
- ・その他にも、「遊具」や「屋根」などの設備を求めている声が多いことがわかる

【回答に使用された単語の出現頻度】

